

令和3年度在宅医療・介護連携推進支援事業
＜都道府県等担当者会議＞
2022年2月

医師会と市のタッグで目指す 老いても、病んでも自分らしく暮らせる地域づくり

臼杵市医師会立コスモス病院
副看護部長 認定看護管理者
療養支援室管理者
訪問看護ステーションコスモス管理者

安東直美

大分県 臼杵市



面積 : 291.08 K m²
人口 : 35,571人
世帯 : 14,872世帯
高齢化率 : 40%超



ユネスコ
食文化創造都市

臼杵

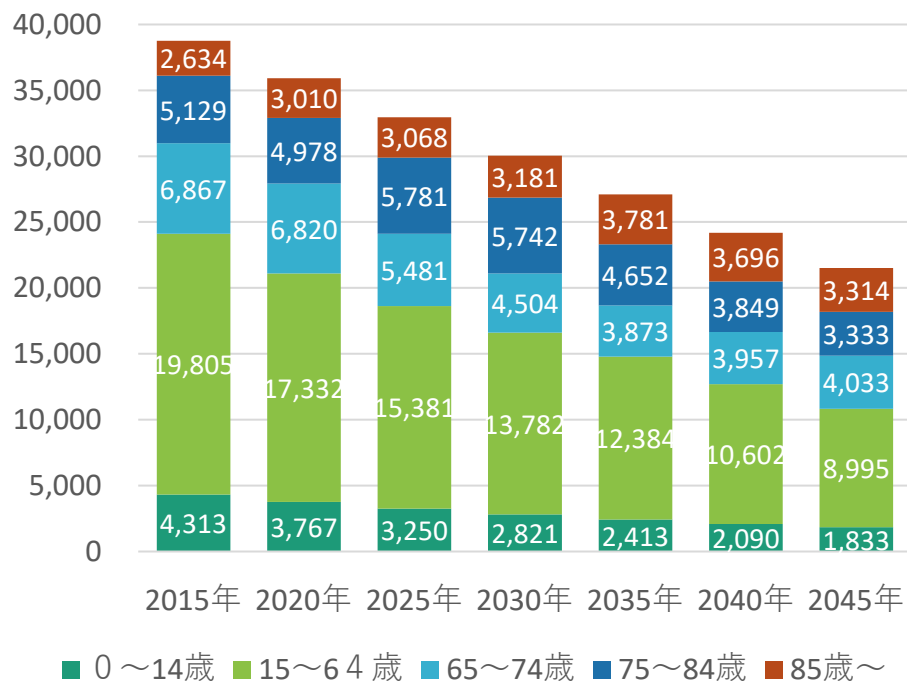


白杵市における将来推計人口について

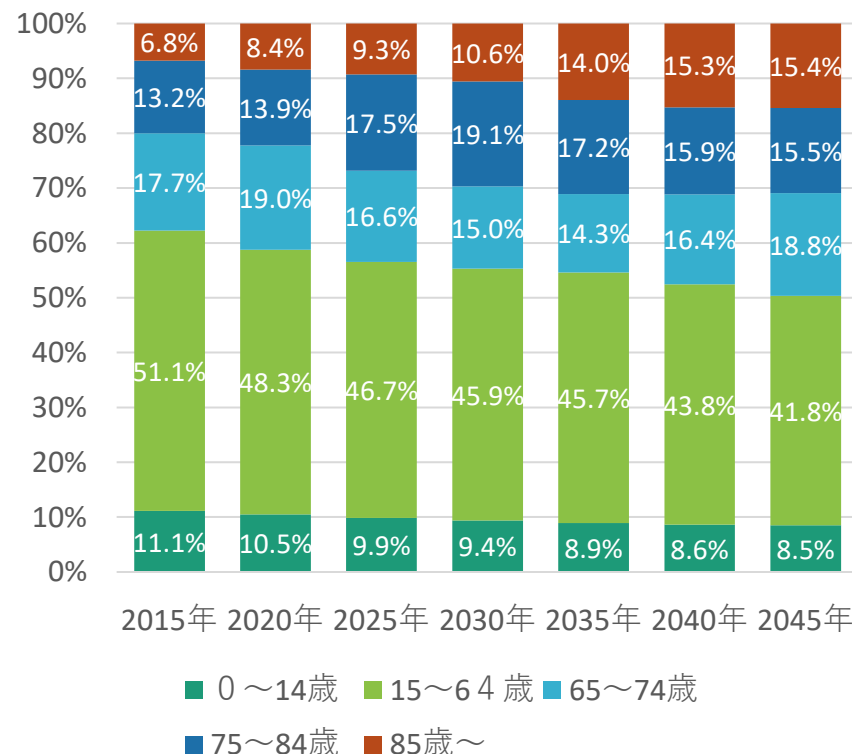
- 2025年には、第一次ベビーブーム世代（1947～1949年生）、いわゆる“団塊の世代”が後期高齢者（75歳）の年齢に達します。
- 2040年には、第二次ベビーブーム世代（1971年～1974年）が前期高齢者（65歳）に達します。
- 2025年以降、後期高齢者の急増はやや緩やかになりますが、85歳以上人口の割合は増加していきます。人口減少の課題に加え、**85歳以上人口の増加と15～64歳の生産年齢人口の急減**を踏まえた施策の展開が求められます。

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
総人口	38,748	35,907	32,961	30,030	27,103	24,194	21,508

【世代別の人口推移】



【世代別の構成比率】



臼杵市医師会コスモス病院

医療を通じて地域から信頼と笑顔を

地域医療支援病院
二次救急医療機関
感染症指定病院

災害拠点病院へき地医療支援病院

紹介率 92%

病床数198床

一般急性期 108床

地域包括ケア 90床

職員数 約470名（常勤医師数13名）

看護職員数 150名

（診療看護師1名 認定看護師4名）

医師会病院として、
29か所の医療機関との
連携を重視した医療を展開



R3年9月～新型コロナウイルス感染症
重点医療機関 地域包括ケア病棟1病棟を
コロナ病棟へ転換

平成24年度在宅医療連携拠点事業 ネーミング→プロジェクトZ12

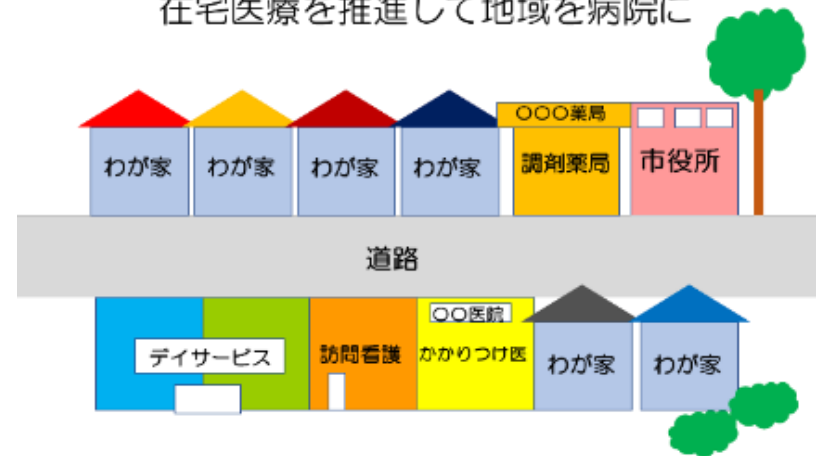
在宅医療連携拠点事業のタスク

- ①多職種連携の課題に対する解決策の抽出
- ②在宅医療従事者の負担軽減の支援
- ③効果的な医療提供のための他職種連携
- ④在宅医療に関する地域住民への普及啓発
- ⑤在宅医療に従事する人材育成
- ⑥復興枠

平成25年度 プロジェクトZ13

- 1. 「自己決定できる」ための
市民への啓発
- 2. 医療と介護の連携と実践力の強化
- 3. 予防事業から看取りに至るまでの
一貫した概念の共有

在宅医療を推進して地域を病院に



2016年

老いても、病んでも自分らしく暮らせる地域作りを



在宅医療介護連携推進事業

臼杵市Z会議

自分らしい生き方を選択しましょう

生きる

石仏が見守るこの臼杵で

活きる

逝ききる

市民が選ぶ **暮らしを支える** ことができる様

顔の見える関係 から

信頼し合える

協働できる関係へ

更に **進化**しよう



これまでの医療・介護連携推進事業の取組概要について

事業項目	実施内容
(ア) 地域の医療・介護の資源の把握	2012年 医療介護資源マップ作成・全戸配布 在宅医療の24時間体制の周知
(イ) 地域の医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討	2012年 調査班による課題抽出 1. 医療福祉従事者の課題抽出（多職種連携依・人材育成の課題） →75名によるグループワーク 2. 福祉に関わる市民（啓発の課題抽出）→ アンケート 3. 在宅医療を受けている方への聞き取り調査 4. がんで亡くなった方の家族への聞き取り調査 2016年 共通ツール作成や気軽に相談できる体制が必要 2017年 医療・介護の連携「私たちどうか関わって行きますか？」連携の評価 2018年 アンケート実施 ・口から食べれなくなった時 どうしたいか ・介護が必要になったらどこで生活したいか ・自分の意思を伝えているか 2019年 「皆さんの声を聞かせてください」グループワーク
(ウ) 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築	2012年 「安心お守りキット」緊急時連携シートの追加 *災害時要援助者（医療）の把握と有事の情報提供 2013年 白杵市がん患者支援体制フロー図作成 2018年 ケアマネタイム作成
(エ) 在宅医療・介護関係者の情報共有支援	2013年 白杵市地域リーダー研修 2014年 研修を通じて顔の見える関係の構築 2018年 Z会議 HP立ち上げ 2020年 新型コロナウイルス対策について意見交換 WEB会議を可能とする環境整備支援、問診票・相談窓口など周知、ワクチン接種についての説明会
(オ) 在宅医療・介護関係者に対する相談支援	2018年 相談窓口設置（相談フロー図作成） 2019年 介護事業所よりコロナに関する正しい情報がなく、不安の声が相談窓口寄せられる 2020年 PCR検査キットの事前配布に関する相談

事業項目	実施内容
(カ) 医療・介護関係者の研修	2012年 テーマ「がん患者の支援」 *研修の重複を 방지、疲弊を予防 *ホームページで市内の研修予定を公開 2013年 テーマ「がんの在宅医療連携の取り組みを理解しよう」「がん終末期患者へのケアのスキルアップ」口腔ケア・エンゼルケア 2014年 テーマ 医療と介護の連携と実践力の向上「認知症」リアル班 多職種事例検討会（食べるをテーマにCM、ヘルパー、施設等を対象に実施） 2017年 リアル班 多職種事例検討会（食べるをテーマにCM、ヘルパー、施設等を対象に実施） 低栄養を防ごう！残薬について考えよう！口腔ケアを広めよう！ 2018年 「こりゃほっちょかれん」完成/配布/活用方法研修 2019年 「こりゃほっちょかれん」ヘルパー研修
(キ) 地域住民への普及啓発	2012年 ケーブルテレビ「お家で暮らそう」がん患者のためのリーフレット/キャッチコピー/イメージキャラクター作成 2013年 「ひとりで家で死ぬますか？」小笹原文雄先生講演 「明日から実践！生活援助」～在宅復帰のために、施設ができること～ 「高齢者が元気になるための地域包括ケア」田井氏、伊藤氏、石井氏 ケーブルテレビ放送「お家で暮らそう」 1.訪問リハ、2.訪問看護、3.心臓リハ→自己決定できる市民 2014年 自分らしい生き方を選択しましょう「人生の終え方を考えましょう」 2016年 自分らしい生き方を選択しましょう「石仏が見守るこの白杵で～生きる 活きる 逝ききる～」 2017年 市報へZ会議だよりを挟みこみ（Zについて、リアル班のお薬、栄養、口腔） 「口から食べられなくなったらどうしますか」小川医師講演
(ク) 市民講座	2018年 市民講座 16回 2019年 市民講座 16回 2020年 市民講座 16回

4 2 回
1 6 回

専門職研修
 市民講座

調査班・研修班

2012.8.21 地域リハビリテーション研修会と共催

がん患者の事例を通して在宅医療従事者の課題抽出を行った



総勢75人のグループワーク

←ドクターたち

↓ 多職種



専門職の望まれる連携の在り方を考える－リレープレゼンテーション方式－



がん患者の退院支援の事例検討－ロールプレイ方式－



手作りの楽しい企画



様々な出前講座の実施

他にも、地域ごとの生涯学習や福祉委員会へのミニ講演
メンバーがそれぞれ地域へ出かけ、様々な啓発活動

内 容 (中学生対象)

1. ころとからだ
2. 看護師のしごと
3. 看護技術模擬体験
4. 看護技術模擬体験
5. いのちの授業
 - a. DVD鑑賞
 - b. グループワーク
 - c. カメのぼんちゃん



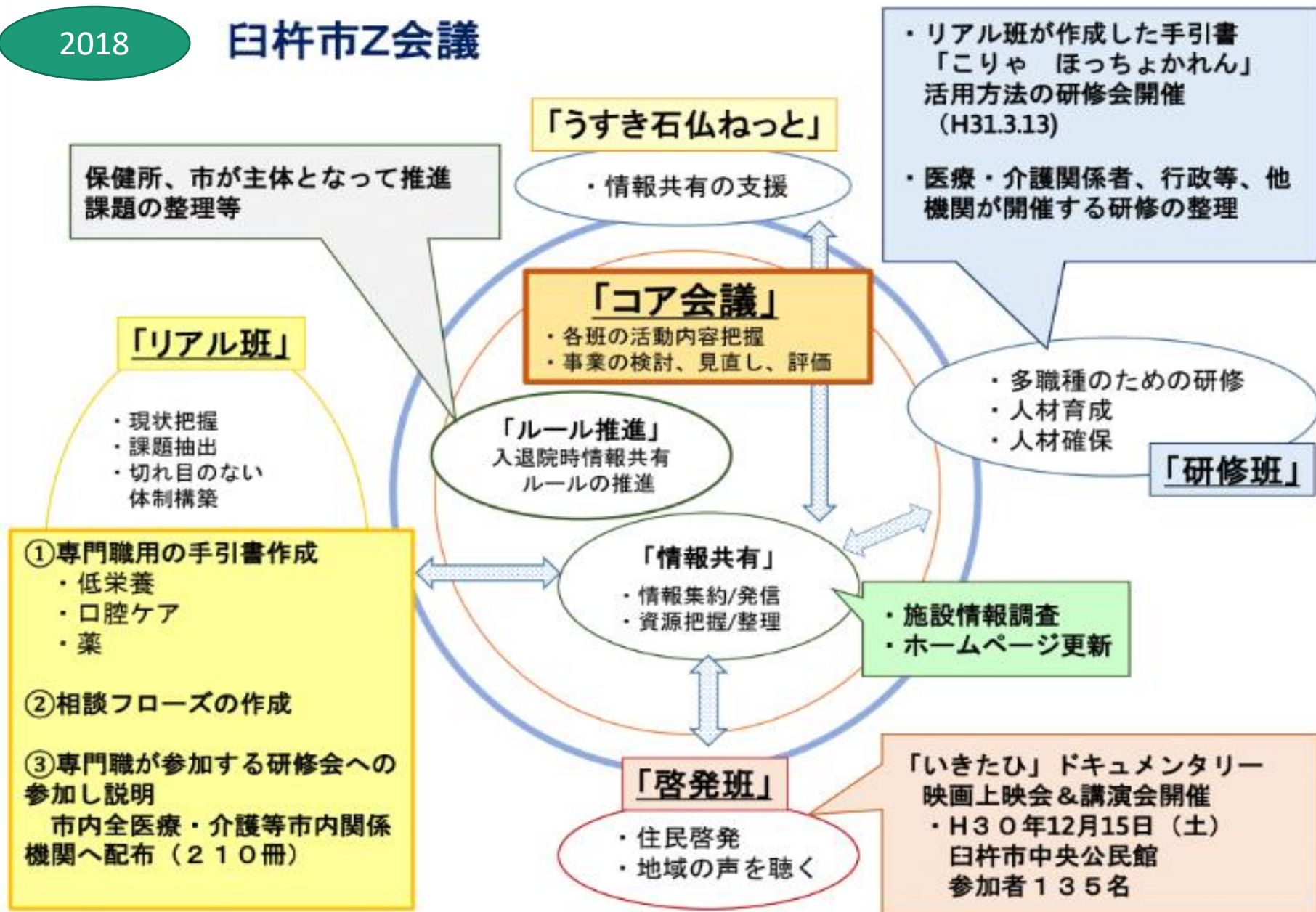
平成29年度 白杵市Z会議市民公開講座

テーマ
口から食べられなくなったら どうしますか？
～自分らしい生き方を選択しましょう～

第1部
『口から食べられることのありがたさ』
白津歯科医師会会長
白土歯科医院 白土 清司 先生

第2部
『食べられなくなったその日あなたならどうする？』
白杵市医師会立コスモス病院
外科部長 小川 聡 先生

と き 平成 29年 5月 21日 (日)
10:00 ~ 12:00 (開場 9:30)
と ころ 白杵市中央公民館 大ホール
主 催 白杵市Z会議



多職種からあげられた課題

- ▶ 高齢者の食事の偏り—**低栄養**
- ▶ 誤嚥性肺炎にならないために—**口腔**
- ▶ 薬がたくさん余っている—**残薬**



- ▶ 専門職間の共通言語
- ▶ 168機関へ配布



▶興味をもってもらえるような仕掛け



舌を破裂させるように！

タ : 舌の先が弱ると、食べ物を押しつぶすのが難しくなります。



舌の先を歯切れよく！

カ : 舌の付け根が弱ると、飲み込むのが難しくなります。

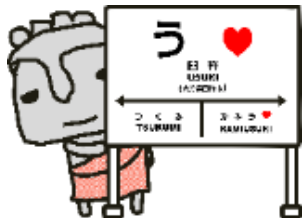


舌の奥をのどに
押し付けるように！

ラ : 舌の先が弱ると、食べ物を丸めるのが難しくなります。



舌の先を
反らせるように！



Q 食事の時間が不規則なのですが、それでも食後に飲んだ方が良いですか？

A ご自身で判断せずに、医師または薬剤師に相談して下さい。
一部の薬を除き、一般的に薬は食前に飲んででも食後に飲んでもあまり効果は変わりません。食事が不規則な場合は、等間隔の時間を決めて飲むと良いでしょう。その際は、胃への負担を減らすためにも多めのお水でお飲み下さい。

～薬剤師からのワンポイント～

糖尿病の薬など食事をしない場合には飲んではいけない薬もあります。また、食後でないとう十分な効果が出ない薬もあります。ご自分の薬が該当するか分からない場合は、必ず医師や薬剤師に確認下さい。




神田薬剤師

▶もちろん撮影も自分たちで



利用者さんを支援する みなさんを支えたい

- ◆困ったときは白杵市Z会議相談窓口へ連絡を！
- ◆「こりゃほっちょかれん」を活用した研修会を行ってみませんか？



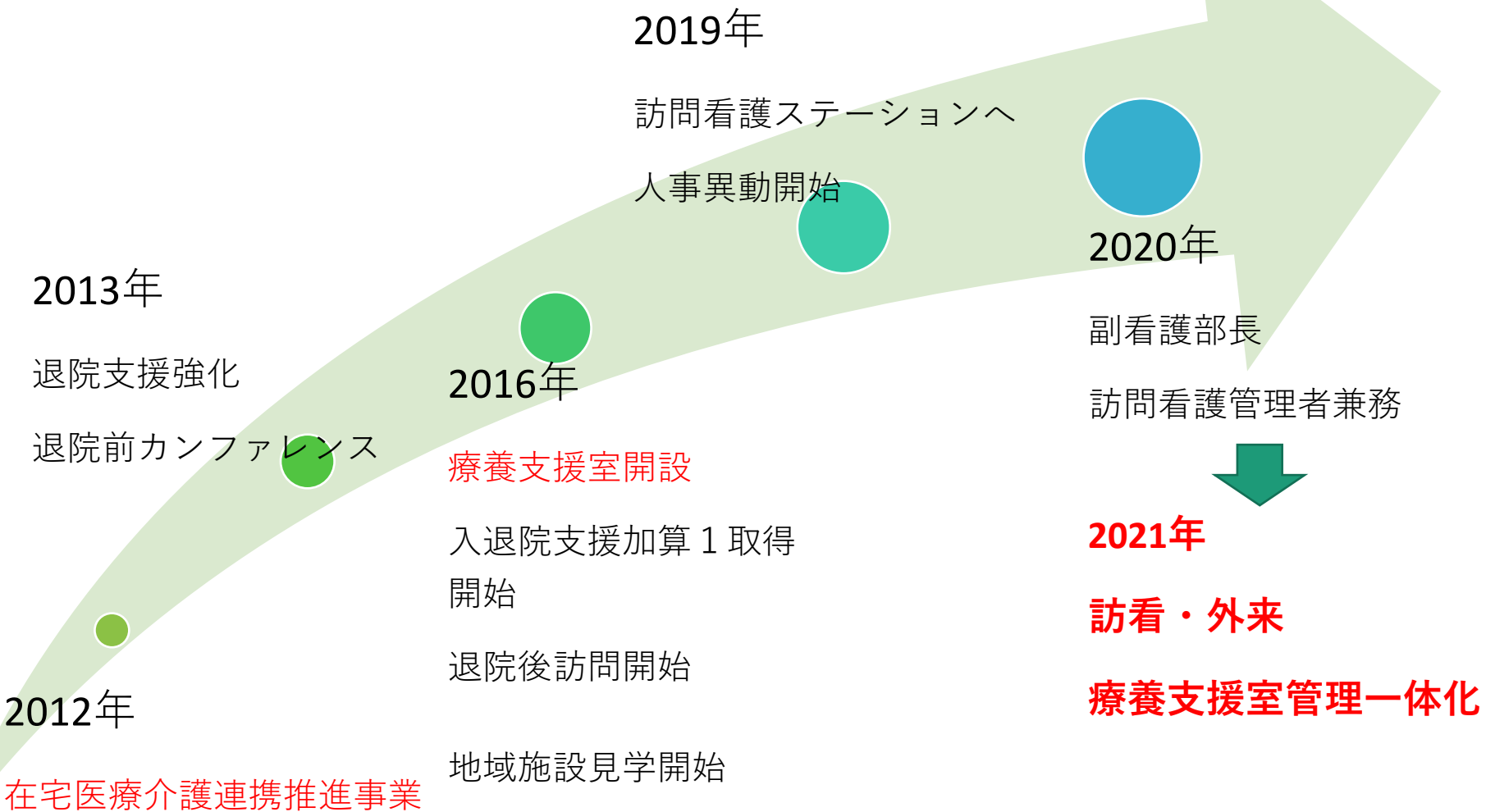
相談フロー図



医師会立病院内の成長と変化 コロナ禍の地域連携

コスモス病院看護部の取り組み

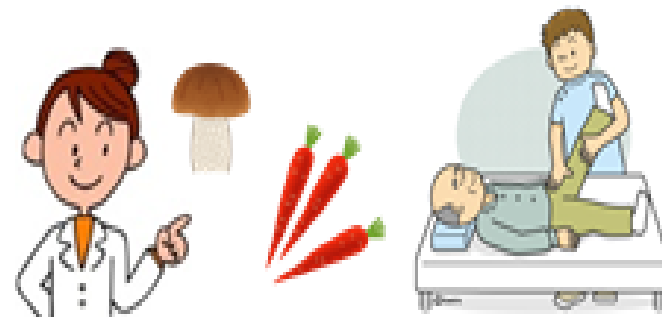
その人らしさを最期まで大切にする看護を提供



コスモス病院は、ご自宅で療養されている方の

介護・生活を支援します。

- ★最近足腰が弱って、浴槽をまたぐ事ができなくなった。
- ★トイレに行くのに手伝いがいるようになった。
- ★食べ物がおいしく食べれない。飲み込みが悪くなった。
- ★すぐむせる。
- ★なんとなく元気がない。
- ★むくみが気になる。



約2週間

短期間入院して、生活に合ったリハビリや
食事に関するアドバイスを
受けてみませんか？



入院中、社会福祉士と看護師が
自宅での生活や介護の様子をお
聞きし、退院後さらに安心して
療養できるようお手伝いさせて
ます。



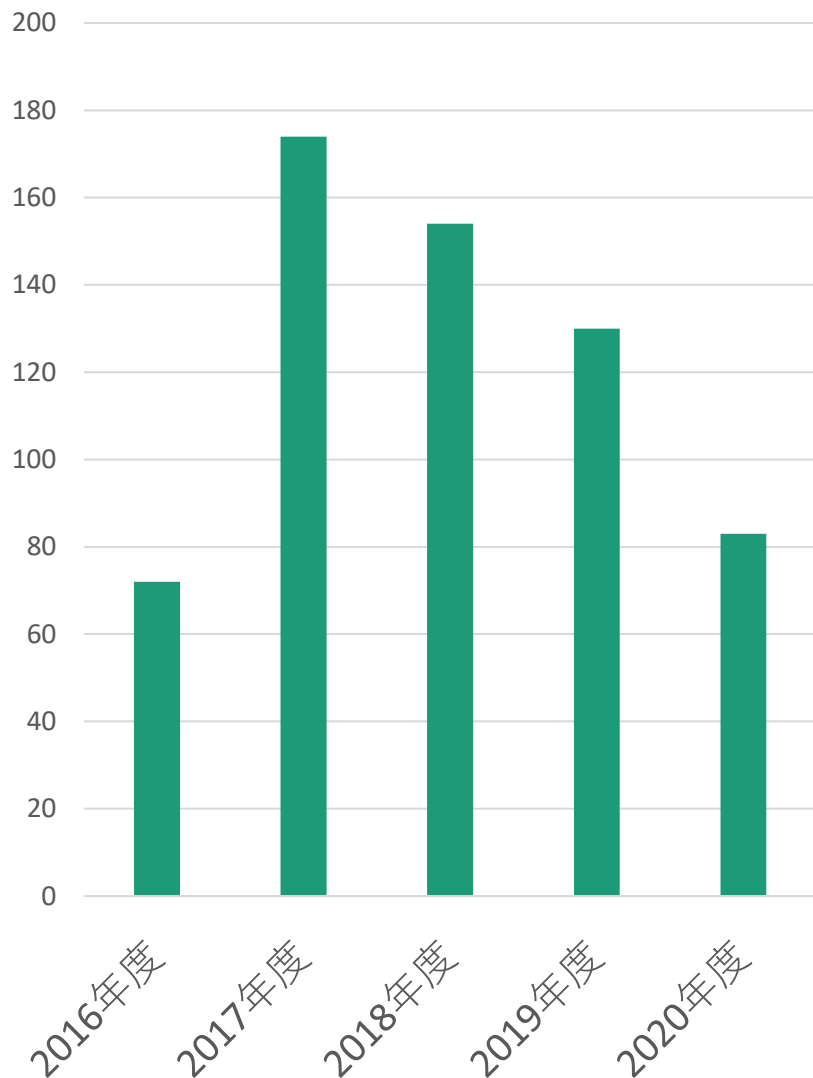
歯科医の診察も可能です

時々入院
ほぼ在宅

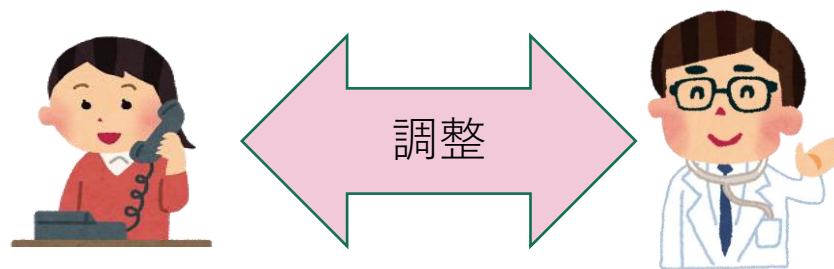
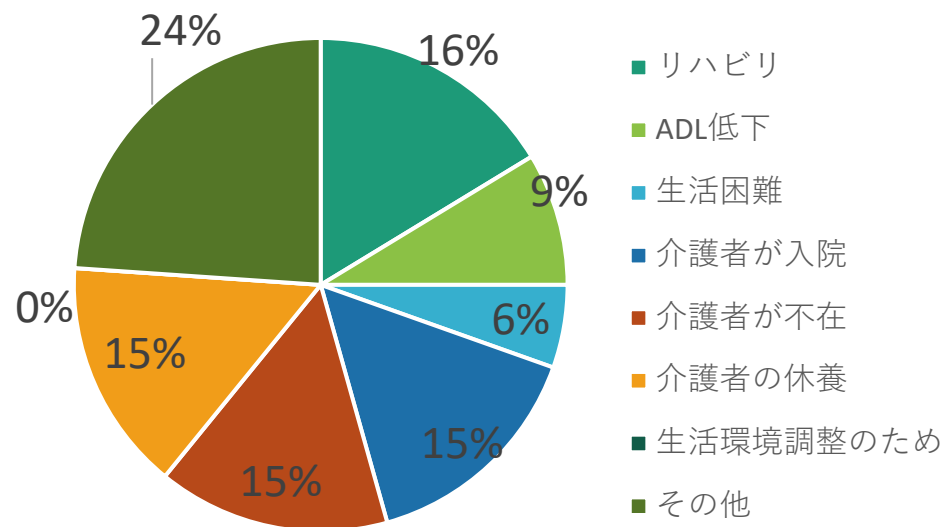
主治医や担当ケアマネジャー・訪問看護師へお気軽に！
「療養支援室」代表 ☎62-5599 (担当 安東・河野)



メディカルショート 件数



メディカルショートステイ 入院理由



ケアマネジャーからの相談内容



95歳 元気がない・褥瘡あるかもしれない
受診も入院も拒否している
かかりつけ医に相談 「往診していない。療養支援室に相談を！」

90歳 娘と二人暮らし 認知症 子宮脱
「婦人科も認知症の病院からも、治療できないといわれた」
どうしたらいいのか、困っている

85歳 ADL低下 失禁回数が多くなった 妻の介護疲労あり
かかりつけ医に相談したら、療養支援室に相談してと言われた

神経難病・急な介護者の体調不良などの緊急時
介護施設でのレスパイト受け入れてもらえない



開業医からの相談内容

今日受診した高齢者の生活が心配 ケアマネさんと一緒に訪問してくれないか

ケアマネから、介護の相談を受けた。代わりに相談に乗ってほしい

妻が来院し、「夫が最近元気がなく、物忘れがひどい。何度言っても受診しない」と相談された。訪問してもらえないか

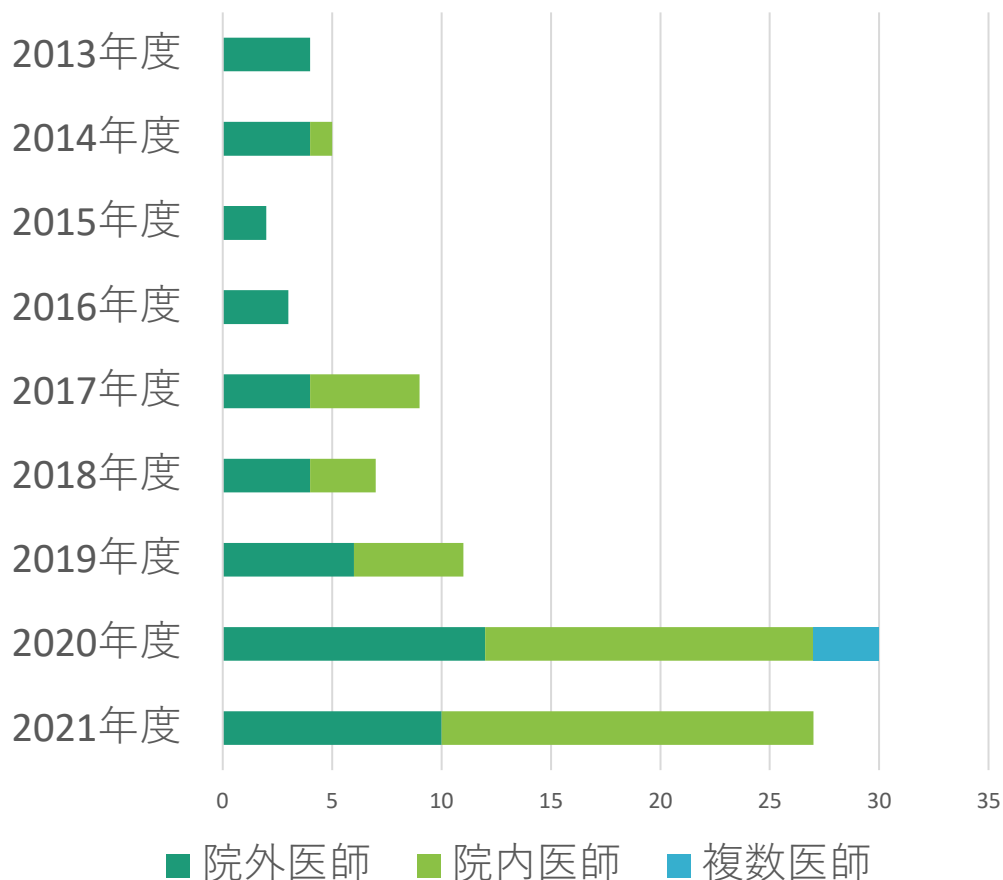
院内外の多職種カンファが盛んになった

患者・家族と在宅支援者が退院支援に参加



在宅看取りができる地域に

当訪問看護ステーションでの
在宅看取件数 推移



要因

- ▶ 病院医師の看取り体制確立
- ▶ ケアマネジャーとのマインドを共有することで円滑な支援体制
- ▶ ヘルパー・福祉用具業者 通所施設・入浴サービスとの良好なコミュニケーション
- ▶ コロナ禍での面会制限の影響

**最期まで
家で過ごせるんだ**

▶ デイの管理者から相談

— 色々な情報が流れ、何が正しいのかわからない

— もし自分のデイで発生したらどうなるの？

— クラスタが発生した時どうなるの？



**⇒ コロナに対する正しい情報を共有
みんなの困りを共有して対策を考えよう！**



ZOOMが使えるネットワーク構築



▶ 介護事業所を持つ開業医へアプローチ

▶ 各事業所と地道にZOOM接続

施設・在宅チームとに分かれてQ&A

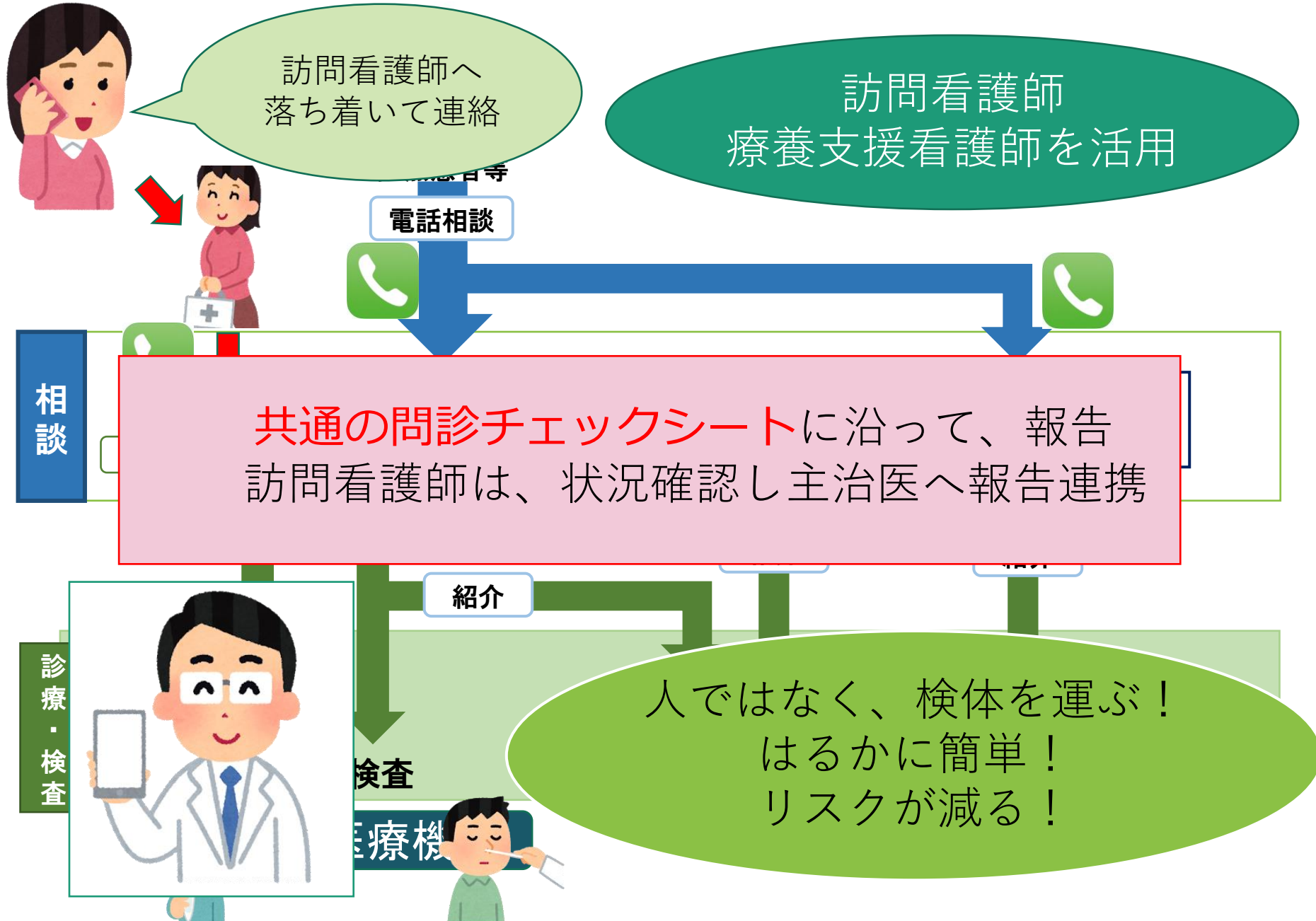
▶ 感染対策マニュアル

▶ 濃厚接触者とは

市・保健所・介護事業所・病院で意見交換



要介護者の受診・検査の流れ



取り組みの成果
評価指標？

医療・介護連携推進事業 10周年

← Withコロナ →

← プロジェクトZ →

← Z会議 →

20
12

20
13

20
14

20
15

20
16

20
17

20
18

20
19

20
20

20
21

20
22

- ・Z新チーム立ち上げ
- ・**新型コロナウイルス対策**について意見交換
- ・**ウェブ会議**を可能とする環境整備支援
- ・問診票・相談窓口などの周知
- ・フクチン接種についての説明会
- ・PCR検査キットの事前配布
- ・コロナで困る課題を共有
- ・**みなさんの声を聞かせてください**研修
- ・こりやほつちよかれんを用いた研修
- ・介護事業所よりコロナに関する相談
- ・冥土カフエ
- ・口から食べられなくなった時どうするアンケート
- ・ケアマネタイム作成
- ・Z会議のホームページ立上げ
- ・相談窓口設置
- ・**こりやほつちよかれん**（口腔・栄養・服薬）完成
- ・口腔ケアチームケーブルテレビ
- ・いきたひ上映
- ・**多職種事例検討会**
- ・市報へZ会議便り挟み込み
- ・口から食べられなくなった時にチラシ作成
- ・市民公開講座「口から食べられなくなったらどうしますか
- ・リアルな現場の課題を抽出
- ・残薬、低栄養、誤服
- ・明日から実践「エアリハ」で介護予防
- ・**市民公開講座**「自分らしい生き方を選択しましょう」
- ・事例で振り返る医療介護
- ・介護保険改定の概要
- ・**出前講座**「命の授業」
- ・市報連載「医療と介護をつなぐ」
- ・市民公開講座「高齢者が元気になるための地域包括ケア」
- ・**カメのぼんちゃん**（絵本）作成
- ・研修を通じて顔の見える関係の構築
- ・医療と介護の**連携と実践力の向上**
- ・在宅における口腔ケアの実践
- ・エンジェルケアについて
- ・地域と協働でとりくむ在宅療養支援
- ・認知症について
- ・**リレープレゼン**研修
- ・臼杵市地域リーダー研修
- ・臼杵市がん患者支援体制フロー図作成
- ・**がんの在宅医療連携**の取組理解・活用研修
- ・臼杵市地域リーダー研修
- ・市民公開講座「ひとりで家で死ねますか？」
- ・**臼杵市地域リーダー**研修
- ・医療介護資源マップ作成・全戸配布
- ・医療福祉従事者の課題抽出
- ・市民アンケート
- ・がんで亡くなった方への聞き取り調査
- ・安心お守りキットへ緊急時連携シート追加
- ・ケーブルテレビ「お家で暮らそう」

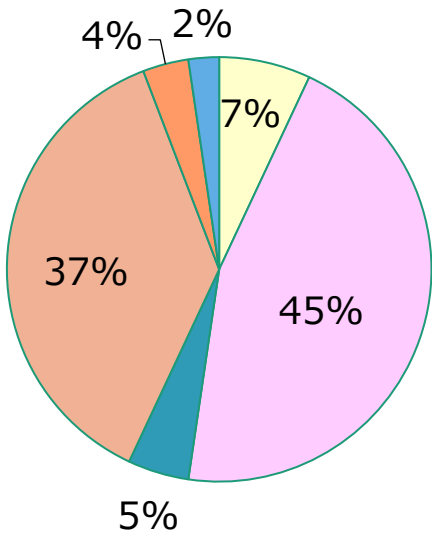
地域づくりに
医療介護連携（医師会病院）がどうかかわれるのか



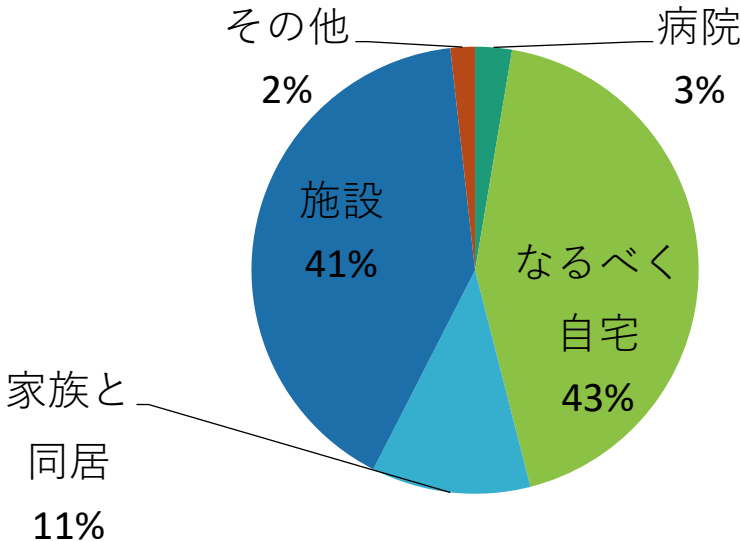
あなたが“介護が必要”になったら、 どこで生活をしたいですか？

平成28年度5月

- 1. 病院
- 2. なるべく自宅で暮らし続けたい
- 3. 自宅での生活が無理になったら家族と同居したい
- 4. 自宅での生活が無理になったら施設にはいりたい
- 5. その他
- 6. 無回答

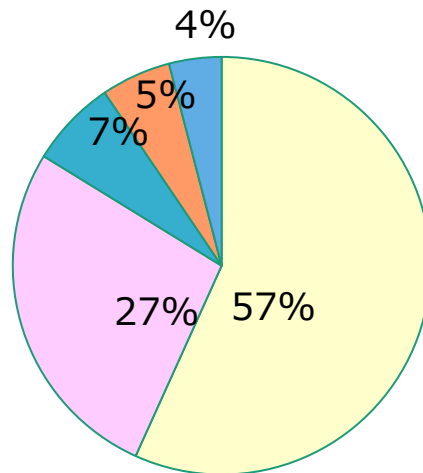
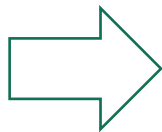


平成30年度12月



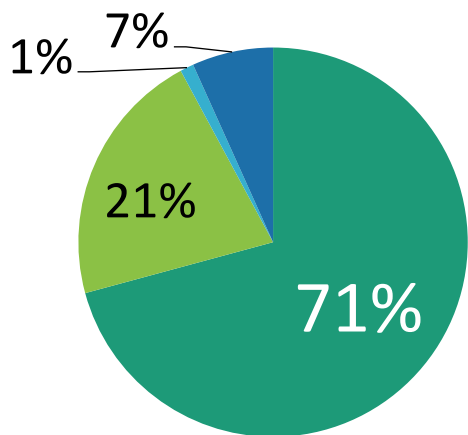
あなたが意思決定ができなくなった時の為に 自分の意思をだれかに伝えていきますか？

平成27年度5月
63%



- 1. 伝えていない
- 2. 伝えている
- 3. 今日伝える
- 4. その他
- 5. 無回答

平成28年度5月



- 1. 伝えていない
- 2. 伝えている
- 3. 今日伝える
- 4. その他

平成30年度12月

これまでの医療・介護連携推進事業の取組概要について

事業項目	実施内容
(ア) 地域の医療・介護の資源の把握	2012年 <u>医療介護資源マップ作成</u> ・全戸配布 在宅医療の24時間体制の周知
(イ) 地域の医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討	2012年 調査班による課題抽出 1. 医療福祉従事者の課題抽出 (多職種連携依・人材育成の課題) →75名によるグループワーク 2. 福祉に関わる市民 (啓発の課題抽出) → アンケート 3. 在宅医療を受けている方への聞き取り調査 4. がんで亡くなった方の家族への聞き取り調査 2016年 共通ツール作成や気軽に相談できる体制が必要 2017年 医療・介護の連携「私たちどうか関わって行きますか？」連携の評価 2018年 アンケート実施 ・口から食べれなくなった時 どうしたいか ・介護が必要になったらどこで生活したいか ・自分の意思を伝えているか 2019年 「皆さんの声を聞かせてください」グループワーク
(ウ) 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築	2012年 「安心お守りキット」緊急時連携シートの追加 *災害時要援助者 (医療) の把握と有事の情報提供 2013年 <u>白杵市がん患者支援体制フロー図</u> 作成 2018年 <u>ケアマネタイム</u> 作成
(エ) 在宅医療・介護関係者の情報共有支援	2013年 <u>白杵市地域リーダー研修</u> 2014年 研修を通じて顔の見える関係の構築 2018年 Z会議 <u>HP立ち上げ</u> 2020年 新型コロナウイルス対策について意見交換 WEB会議を可能とする環境整備支援、問診票・相談
(オ) 在宅医療・介護関係者による	2020年 PCR検査キットの事前配布に関する相談

事業項目	実施内容
(カ) 医療・介護関係者の研修	2012年 テーマ「 <u>がん患者の支援</u> 」 *研修の重複を 방지、疲弊を予防 *ホームページで市内の研修予定を公開 2013年 テーマ「 <u>がんの在宅医療連携の取り組みを理解しよう</u> 」「 <u>がん終末期患者へのケアのスキルアップ</u> 」 <u>口腔ケア・エンゼルケア</u> 2014年 テーマ <u>医療と介護の連携と実践力の向上</u> 「 <u>認知症</u> 」 2017年 リアル班 <u>多職種事例検討会</u> (食べるをテーマにCM、ヘルパー、施設等を対象に実施) 低栄養を防ごう！残薬について考えよう！口腔ケアを広めよう！ 2018年 「 <u>こりゃほっちょかれん</u> 」完成/配布/活用方法研修 2019年 「 <u>こりゃほっちょかれん</u> 」ヘルパー研修
(キ) 地域住民への普及啓発	2012年 <u>ケーブルテレビ「お家で暮らそう」</u> がん患者のためのリーフレット/キャッチコピー/イメージキャラクター作成 2013年 「ひとり家で死ぬますか？」小笹原文雄先生講演 「明日から実践！生活援助」～在宅復帰のために、施設ができること～ 「高齢者が元気になるための地域包括ケア」田井氏、伊藤氏、石井氏 <u>ケーブルテレビ放送「お家で暮らそう」</u> 1.訪問リハ、2.訪問看護、3.心臓リハ→自己決定できる市民 2014年 <u>自分らしい生き方を選択しましょう</u> 「 <u>人生の終え方を考えましょう</u> 」 2016年 <u>自分らしい生き方を選択しましょう</u> 「 <u>石仏が見守るこの白杵で～生きる 活きる 逝ききる～</u> 」 2017年 市報へZ会議だよりを挟みこみ (Zについて、リアル班のお薬、栄養、口腔) 「 <u>口から食べられなくなったらどうしますか</u> 」小川医師講演 「 <u>口から食べられなくなった時に</u> 」チラシ作成 ほっとさん健康体操 「 <u>カメのぼんちゃん</u> 」作成 「 <u>痛みを笑いに変える 明日から実践！エアリハで介護予防</u> 」日向停葵誌講演 2018年 口腔チーム <u>ケーブルテレビ撮影、放送</u> 「 <u>いきたひ！映画上映 写すカマ</u> 」実施

それぞれの取り組みや、ルールが利活用されているのか
評価ができていない

「第2回 みんなの声を聞かせてください会議」

日時：令和元年12月17日（火）18時30分～20時30分
会場：臼杵市中央公民館 講座室

職種に関係なく、
相談できる関係が
できている

～本日の目標～

自分らしく暮らしていけるために、

★「こうなったらいいなあ・・・」

★「臼杵市Z会議で取り組みたいなあ。取り組めそうだなあ。」

《⑤ツールの活用》

社会資源マップなど、更新されていない。
ツールは作成しているのに
活用されていない

《①うすき石仏ねっと》

機能はあるのに、うまく活用できてない。
福祉や地域の情報も共有したい。
※石仏ねっと運営協議会へつなげる

《⑦情報の共有》

目的（思い）を共有
カンファレンスや面接など共有し合える場の活用

《④研修会》

顔の見える関係づくりが大切、
研修会は大事、人材育成と
言いながら、参加者が固定、
少ない。
それぞれの専門性を知らない。

《⑥意思決定支援》

支援が必要になる前に考える
最期の時のことを話し合う機
会、きっかけを

《③啓発》

若者、商業施設などに向けた啓発
他の制度などとコラボしてチラシを作成
したら・・・

《②地域との連携》

区長、民生委員、福祉委員、子どもなど、
市民との課題共有。
相互の情報共有。

人手不足・慢性的な疲労感

研修会、啓発、ツール作成・・・

これまでやってきたことが活かされてる???

必要だけど、今までのやり方でいいの？Zで何をを目指すのか？



医療・介護連携推進事業10周年

これから どう進む？

地域包括ケアシステムのイメージ



市はどのような地域を目指しているのか

白杵市における地域支援事業の展開について（イメージ）

- 介護保険制度において、介護及び予防の給付以外は「地域支援事業」に分類される。
 ※ 地域支援事業～介護予防・日常生活支援総合事業（介護予防・生活支援サービス事業、一般介護予防事業）、包括的支援事業（地域包括支援センターの運営、地域ケア会議推進事業）、在宅医療・介護連携推進事業、認知症総合支援事業、生活支援体制整備事業、任意事業（介護給付費適正化事業、家族介護支援事業、その他の事業）
- 介護保険法の理念は「介護予防と自立支援」であり、手段として地域支援事業を利活用することで、「地域に生きがいや役割・活躍の場があり、年齢を重ねても安心感を持つことができ、生き生きと暮らせる環境づくり」を展開することが求められる。
- それぞれの事業に関わる関係者同士がつながり、人と活動、活動と活動がつながり、協働しやすい環境や取組を推進する。「人」と「場」の機能が重要であり、既存の人的資源や意見交換の場などを利活用しつつ、白杵市全体が一つのチームとして機能することを目指す。

多職種連携による包括的な支援体制

地域のつながり等による心豊かな生活環境

在宅医療・介護連携推進事業

医療や介護等の幅広い職種や機関の関係者が認識を共有し、今後の白杵市のあるべき姿に向けた協働の体制を構築し、切れ目のない支援の提供体制を整備する。

地域の医療介護連携の実態把握、課題の検討、課題に応じた施策立案に基づき、情報共有、関係者の相談支援、普及啓発、医療圏域や隣接する市町村との連携体制等の必要な取組を展開する。



医療・介護の関係者
(Z会議)

地域に生きがいや
役割・活躍の場があり、
安心感を持って、
生き生きと暮らせる
環境づくり



介護予防サポーター

介護予防・日常生活支援総合事業

介護予防・生活支援サービス事業

住民主体の多様なサービスを支援の対象とするとともに、白杵市民に必要な支援（訪問・通所型の短期集中サービス等）の体制を構築する。



一般介護予防事業

把握、普及啓発、通いの場、評価、専門職派遣等の幅広メニューを活用することで、介護予防（自助）と生活支援（互助）といった市民の力を活かした活動展開が可能な体制を構築する。

認知症地域支援推進員

市町村とともに地域を後方支援し、地域での認知症への理解を深化させるとともに、地域において把握した認知症の方の悩みや家族の身近な生活支援ニーズ等を認知症サポーターを中心とした支援者をつなぐ仕組みを構築する。

認知症初期集中支援チーム

社会から孤立している状態にある人への対応も含め、複数の専門家によるチームで、適切な医療・介護サービス等に速やかに つなぐ取組を強化する。



認知症サポーター／
チームオレンジ

生活支援体制整備事業

生活支援 コーディネーター

地域での生活上の課題等をキャッチし、住民が主役となった活動を支援していくことにより、地域における支えあいを推進する。

就労的活動支援 コーディネーター

社会参加に着目した就労的な活動を支援し、高齢者を中心とした役割や活躍の場を増やしていく。



地域ケア会議、及び協議体等による組織的なバックアップ

臼杵市が目指す将来像の共有

- 臼杵市における共生のまちづくりは、「つながり支えあい、多様な人々が地域で共に生きていく」ことに加え、「生活基盤としての臼杵市という地域と共に生きていく」という2つの考え方を含んでいます。
- 多様性を認め、受け入れ、それぞれの人々が力を発揮できるまちづくりは、幸せや心の豊かさを実感できる生活の基盤を強固にし、暮らしを取り巻く様々な社会・経済活動の基盤の持続的発展にもつながります。
- 風土や文化の継承、災害時への備え、温かい心といった「臼杵の将来を担う子どもたちに胸を張って継承できる臼杵市」を残していくため、臼杵市での暮らしを構成する多様な主体が目指す方向性を共有し、「参画と協働」を重視することにより、行政、医療・保健・介護・福祉、教育、環境、経済等を包含したライフステージを通じて切れ目のない、安心して暮らせる環境づくりが望まれます。

【臼杵市まちづくり基本条例（自治基本条例）の前文より抜粋】

「生まれて」「育って」「住んで」「働いて」良かったと思える心豊かな、笑顔がゆきかう臼杵市を、市民が主体となって次世代に確実に引継ぎ、発展させていくことをめざします。

多機関の連携による
包括的な支援体制

心豊かな生活環境
地域のつながりによる



乳幼児期・学童期・青年期・中年期・壮年期・高齢期を通じ、切れ目なく安心できる生活環境の整備

目的意識の共有の場がない

目的意識の共有
事業間のつながり



市は、医療・介護連携事業をどう位置付け
どのような役割期待を持っているのかを確認する



目的目標の共有の上に活動することで
さらに、活用され地域に役立つものとなる

「ベクトルを同じにする」
意識を持てれば

もっとできることがあるはず

マンパワー不足をいかに乗り越えられるのか 効率的な業務整備と 災害時にも強いネットワーク



ご清聴
ありがとうございました

